

# 日韓現代写真史 (1945-2002)

年	月	国	事項
1945	8	韓国	日本の植民地支配が終結。この日8月15日は「光復節」と呼ばれ、大韓民国の祝日のひとつ
	9	韓国	朴栄鎭が会長となり「朝鮮写真芸術研究会」を結成、副会長に李海善
	11	韓国	写真画報誌『国際報道』創刊（45号まで）
1946	-	日本	福田勝治『裸婦五態』イブニングスター社。戦後初のヌード写真集
1947	7	国際	スタイケン(Edward Steichen)、ニューヨーク近代美術館(MOMA)の写真部長に就任
	10	日本	写真家集団「銀龍社」が赤穂栄一、石津良介、桑原甲子雄、佐伯啓三郎、林忠彦、樋口忠男、村林忠、吉田潤らによって結成される
	11	日本	『週間サンニュース』創刊。サン・ニュース・フォトス社。編集名取洋之助。木村伊兵衛を顧問に、稲村隆正、藤本四八、牧田仁、三木淳らが撮影。1949年1月廃刊
1948	2	韓国	月刊月間写真画報『ソウルグラフ』創刊（朝鮮写真文化社刊）
	7	韓国	朝鮮写真文化社で国内最初の本格写真雑誌『写真文化』が創刊、創刊号に朴弼浩の評論「営業写真の芸術性」が掲載
	8	韓国	アメリカの管理下だった朝鮮半島南部に大韓民国が成立
		韓国	林奘済が解放後初めての個展を東和百貨店画廊で開催
	9	韓国	朝鮮民主主義人民共和国が成立
		日本	「日本写真家集団」創立。木村伊兵衛、渡辺義雄、土門拳らが参加。後の日本写真家協会の母体の一つ
1949	3	韓国	第一回新進作家写真展開催（林奘済、金性烈らが参加）
	10	韓国	ソウル明洞で韓国新聞写真家協会定期総会を開催（幹事長＝崔昌熙、幹事＝金貞來、玄一栄、李秉殷）
		日本	『アサヒカメラ』復刊。朝日新聞社。編集長津村秀夫
		日本	初の天然色フィルムによる「カメラアングル」展。主催富士写真フィルム。日本橋、三越
	11	韓国	国際報道連盟より『Pictorial Korea』が創刊
1950	6	日本	「岩波写真文庫」創刊。岩波書店。編集名取洋之助。1959年休刊するまで286冊を刊行
	12	韓国	林應植、趙明源、鄭寅成、池富源らを中心に釜山国際クラブで「韓国写真作家協会」が結成（会員約40名）
		日本	写真雑誌懇話会「七代会」が『カメラ』『カメラファン』『光画月刊』『フォトアート』『日本カメラ』の編集者により結成
	-	日本	朝鮮戦争が始まり米兵によるカメラ需要が急増、カメラ工業も活況、カメラカメラは定価を上回る価格で取引された
1951	7	韓国	朝鮮戦争の休戦会談が38度線上の開城で開催
	12	日本	「日本写真協会（Photographic Society of Japan 略称PSJ）」設立。初代会長菊池久吉。1952年社団法人化
1953	1	韓国	アルス主催「東京国際写真サロン展」で林應植の「ひよこ」が入選
	7	韓国	板門店で朝鮮休戦協定が調印
	9	日本	「二科展」第38回展に写真部第1回展を併催。東京都美術館
	10	韓国	東方写真文化社が『東方写真ニュース』を創刊
1955	4	韓国	初代会長を鄭熙燮に、全国写真家連合会が創立
	6	韓国	林應植が京郷新聞紙上に「写団の現在と将来、生活主義写真の生産のために」の一文を発表、生活主義写真の本格的な展開
1956	3	韓国	玄一栄が東和百貨店で個展を開催、現代性を具現した初期の作品
		日本	「ザ・ファミリー・オブ・マン展」日本橋、高島屋。主催日本経済新聞社。写真界にとどまらず大きな影響を与えた。
	8	韓国	富国写真鋳業社が最初の国産黒白印画紙の生産を開始
		韓国	リアリズム写真を標榜する最初の理念的写真集団「新鮮会」が結成（李亨祿、李海文、安鐘七、韓栄洙他）
	10	韓国	韓昌洋行がコダック製品の輸入を開始
1957	1	韓国	写真に対する特別行為税免除が施行
		韓国	「韓国写真作家団」が結成（李敬模ら6人、これは商業性を標榜した最初の団体）
		日本	「写真批評家クラブ」が「日本写真批評家協会」と改称。会員＝阿部展也、重森弘淹、金丸重嶺、滝口修造、伊奈信男、桑原甲子雄、亀倉雄策、など。その後伊奈・金丸が脱会
	4	韓国	景福宮美術館でスタイケンの「人間家族展」
		国際	第1回「ベネチア国際写真ビエンナーレ」
	8	日本	土門拳、『週間新潮』の依頼で被爆 12年後の広島を訪れ被爆患者を撮影。後に写真集『ヒロシマ』にまとめる
	-	韓国	韓国で最初のカラー写真の公募展
1958	4	日本	第1回「女流写真家協会展」小西六フォトギャラリー
	9	国際	『ライフ』が創刊（1936年）以来の総発行部数50億部を記録
1959	7	日本	写真家による共同のエージェント「VIVO」結成。参加者＝川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、奈良原一高、細江英公。1961年6月解散
	10	日本	第2回「ベネチア国際写真ビエンナーレ」に現代日本の20人の写真家の作品（約200点）展示。参加者＝秋山庄太郎、稲村隆生、植田正治、大竹省二、大東元、木村伊兵衛、島田謹介、田中徳太郎、東松照明、長野重一、中村正也、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、船山克、三木淳、緑川洋一、吉岡専造、渡辺義雄、渡部雄吉
1960	4	韓国	国際報道連盟主催で国立図書館において外国コンテスト入選作品傑作写真展が開催、林應植の「ひよこ」「木」、鄭寅成の「農村の秋」など30余点が出品
	10	韓国	李亨祿らがアルス写真サロンを創立、形式主義写真が台頭
	-	日本	芸術選奨文部大臣賞 土門拳（「日本風土記」「古寺巡礼」「民族の美」等、日本の伝統を意欲的に追求し写真表現に対して）
1961	12	韓国	「韓国写真協会」が社団法人として創立、顧問＝林弼浩・李海善・崔桂福・理事長＝鄭熙燮
1962	9	日本	日本写真協会・国立科学博物館共催「日本写真百年史展」国立科学博物館。写真発掘運動により収集された写真約1500点、カメラ機材約500点、文献多数を展示。また、資料台帳を作成し、永久保存の品目を選び、写真は国立国会図書館に、機材・銀板写真・湿板写真等は国立科学博物館に保管を依頼
	11	日本	細江英公「薔薇刑」富士フォトサロン
1963	5	国際	第4回「芸術としての写真」ニューヨーク、メトロポリタン美術館、日本から藤恵乾吾、岩松健夫、近藤一彦、田村正衛、山口彰亮が入賞
	-	日本	細江英公『薔薇刑』集英社
	-	日本	日本写真批評家協会賞 作家賞－細江英公『薔薇刑』（集英社）
1964	5	国際	MOMAが拡張工事を終え、「写真家の眼（Photographer's Eye）」展を開催、同館永久保存の写真を展示。なお「スタイケン写真センター」も新設、写真を常設展示
	8	韓国	第13回国展に写真部門が新設
1966	6	韓国	最初の韓国写真年鑑が刊行
	7	日本	「現代写真家の10人展」東京国立近代美術館。出品＝安斎吉三郎、佐藤明、篠山紀信、高梨豊、東松照明、富山治夫、奈良原一高、中村由信、細江英公、横須賀功光
1969	9	韓国	国展から写真部門が廃止
1970	-	日本	中平卓馬『来たるべき言葉のために』風土社

※印は、本展覧会に係する事項

年	月	国	事項
1970	-	日本	荒木経惟『センチメンタルな旅』自費出版
1971	7	韓国	韓国写真協会と韓国創作写真協会が統合、韓国写真協会として発足
1973	-	国際	1972年休刊した『ライフ』の軌跡をたどる『ザ・ベスト・オブ・ライフ』（The Best of LIFE）出版
1974	7	日本	「15人の写真家展」東京国立近代美術館。選考委員岡田隆彦、桑原甲子雄、多木浩二、渡辺勉、荒木経惟、北井一夫、沢渡朔、篠山紀信、高梨豊、田村シゲル（田村彰英）、内藤正敏、中平卓馬、新倉孝雄、橋本昭嵩、深瀬昌久、森山大道、柳沢信、山田脩二、渡辺克己の作品
	12	韓国	韓国写真協会主催で国立公報館画廊において「第一回国際写真文化交流展」が開催、李海善・安月山・李建中らが出品、韓国・日本・中国から102点が出品
1975	5	日本	朝日新聞社が、故木村伊兵衛氏の業績を記念して、すぐれた発表活動をした新人写真家に贈られる「木村伊兵衛賞」を制定。76年から表彰する
1977	12	日本	牛腸茂雄『SELF AND OTHERS』ミノルタフォトスペース
	-	国際	ソntag(Susan Sontag)『写真論（On Photography)』出版。1979年邦訳（晶文社）
1978	4	韓国	『映像』誌が創刊 3周年記念特集「今日の韓国写真家」（鄭範泰・崔敏植・金重晩・朱命徳・姜運求・黄憲万・金秀男らを紹介）
	-	日本	朝日賞 土門拳『古寺巡礼』（全5巻、美術出版社）をはじめ多年の業績、日本写真協会賞 新人賞－新正卓『PATRICIA』（北斗企画）、牛腸茂雄『SELF AND OTHERS』（白亜館）、栗林慧（昆虫写真で動態撮影などの新しい手法を開発）
1979	12	韓国	陸命心・崔寅辰の共著で国立現代美術館より『韓国現代美術史（写真）』を発行
1980	3	韓国	「写真で見る韓劇末」展開催（1880-1920年フランス神父が撮影した韓国最初期のカラー写真と開化初期の韓国の風俗を記録した写真）
1981	1	国際	A. アダムスのオリジナル・プリント「ヘルナンデスの月の出(Moonrise, Hernandez)」が、米のオークションで7万5000ドルの高額で落札
1982	5	韓国	韓国写真教育学会創立（81年7月に結成された韓国写真教授協議会が改編、発足）
1983	8	韓国	※フォト・エージェンシー「タイム・スペース」が開設、TSギャラリーでアンセル・アダムス、藤井秀樹展、桑原史成など外国作家を紹介
	10	日本	「土門拳記念館」（館長三木淳）が故郷の山形県酒田市に開館。わが国最初の写真専門美術館
1984	5	韓国	※ワールド・フォト、タイム・スペースなどフォトエージンシーが相次ぎ開業、写真に関する著作権、出版、PRなどの分野で活躍、写真の役割と機能を拡大するきっかけに
	8	韓国	日本文化院でシンポジウム「現代写真の状況・アメリカ・ヨーロッパ・日本を中心に」
	11	韓国	「韓国写真50年展」が東京の韓国文化院で開催
1985	10	日本	今道子「静物」ニコンサロン（新宿）
1987	11	韓国	月刊写真誌『イメージ』創刊
	-	台湾	※韓国の写真評論家・金升坤が台北で講演会を開催
	-	日本	芸術選奨文部大臣新人賞 雑賀雄二『軍艦島 棄てられた島の風景』新潮社
1989	1	日本	「11人の1965～1975－日本の写真は変えられたか」山口県立美術館。荒木経惟、牛腸茂雄、須田一政、高梨豊、田村彰英、東松照明、内藤正敏、中村卓馬、深瀬昌久、森山大道、柳沢信が参加、展示作品が収蔵された
	5	韓国	月刊『写真芸術』創刊
	10	韓国	朝鮮日報美術館で桑原史成個展「韓国－激動の四半世紀」開催
	11	韓国	※トータル美術館で、若手写真家50名による写真展第一回「韓国写真の水平展」開催
1990	6	日本	東京都写真美術館が第1次開館、初代館長に渡辺義雄就任。記念展「東京都市の視線」
	7	日本	季刊『déjà vu(デジャ・ヴュ)』創刊。フォト・プラネット社。飯沢耕太郎責任編集
1991	12	韓国	※ソウル市立美術館で第二回「韓国写真の水平－アジアの眼」展が開催（韓国の若手写真家50人と台湾・日本から各5名が参加）
	-	台湾	※中華攝影教育協会年度会で韓国の評論家・金升坤を招聘し「韓國現代写真の状況」「写真芸術の開放状況」を講演
1992	6	韓国	※紫霞門美術館で「ア！大韓民国」展が開催（具本昌・金碩重・金定夏・俞在鶴・姜民権）
	10	韓国	芸術の殿堂で「美術と写真」展が開催
	11	台湾	※韓国で開催の「11月・韓国写真の水平展」で游本寛、陳順築、高重黎、林日山、章光和の五人が参加
1993	8	韓国	※公平アートセンターで第三回「韓国写真の水平展」が開催
	-	日本	都築響一『TOKYO STYLE』京都書院
1994	1	韓国	芸術の殿堂で「韓国現代写真の流れ 1945-94」開催（解放後から現在まで代表的な写真家100人による）
	6	国際	「ザ・ファミリー・オブ・マン美術館」、ルクセンブルクのシャトー・ド・クレルボに開設
	8	韓国	※コダック・フォトサロンで第一回「大同山水」展開催（裴炳雨・金壯燮らが参加）
	12	韓国	「写真の日」制定推進委員会（6の写真関連団体）が8月19日を「写真の日」に制定
1995	8	韓国	「第11回東川町国際写真フェスティバル」で金秀男が海外作家賞を受賞
		韓国	※水戸芸術館で「心の領域」展に裴炳雨らが参加
	9	韓国	韓国写真美術館設立推進委員会が発足、委員長に林應植、副委員長に各写真団体の会長、委員に写真家ら28名で構成
		韓国	第1回光州ビエンナーレ開催
	-	日本	長島有里枝『empty white room』リトルモア
1996	1	日本	※東京都写真美術館にて「asian view エイジアン・ヴュー 躍動するアジア」が開催
	12	日本	HIROMIX「SELF」東長寺講堂・P3
	-	日本	畠山直哉『ライム・ワークス』シナジー幾何学
1998	-	韓国	※芸術の殿堂で「韓国写真の歴史」展が開催
	-	韓国	第1次日本大衆文化開放として映画（三大国際映画祭受賞作品）、ビデオ、出版部門を解禁
1999	3	日本	福岡アジア美術館の開館記念展として、第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999(第5回アジア美術展）開催。韓国からはチェ・ジアン、イウム、イー・チョンモツが参加
	-	韓国	第2次日本大衆文化開放策、約70の国際映画祭受賞作品解禁。アニメは除外／2000席以下の室内での日本語の歌謡公演解禁
2000	3	韓国	第3回光州ビエンナーレ開催。アジア部門、 特別展示に日本人コミッショナー
	-	韓国	※光州市立美術館で「第3回光州特別展 韓日現代美術の断面」展が開催
	-	韓国	第3次日本大衆文化開放策、日本歌謡公演の全国開放、劇場用アニメの一部とすべての一般映画の上映など許可
2001	1	日本	せんだいメディアテーク開館
	9	日本	横浜トリエンナーレ2001開催。4人のアーティストティック・ディレクターが世界各地を調査し、 選出した109組のアーティストが参加
2002	3	日本	福岡アジア美術館にて第2回福岡トリエンナーレ開催。韓国からはチョン・ヨンドウ、ニッキー・リー、ソン・ヒョンスクが参加
	5	日本	せんだいメディアテーク、埼玉県立近代美術館にて『人（サラム）・風（ハラム）韓国現代写真の地平』展が開催

参考文献

- 飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』講談社現代新書 1287, 1996
- 東京都写真美術館編『「asian view エイジアン・ヴュー 躍動するアジア」展図録』（財）東京都歴史文化財団 東京都写真美術館，1996 内掲載「中国・香港・台湾・韓国写真史年表 [1895-1995]」（作成・監修：陸命心、呉嘉實／翻訳：金升坤、關次和子）
- 日本写真家協会編『日本現代写真史 1945-95』平凡社，2000
- 国際交流基金日韓文化交流連絡室編「日韓交流通信」web サイト内「日韓文化交流史年表」http://www.jpff.go.jp/jkxx/features/cultual\_chronics/fj\_chrono\_index.html